

震災復興と文明（コアプロジェクト3）

東日本大震災はその被災の範囲、深刻度において近年の災害の中でも現代の世代が経験したことのない大規模な自然災害であるだけでなく、われわれに現代文明のあり方を反省させる契機ともなった。

「調和のとれた文明社会の創造」は本学建学の理念である。文明研究所は、この建学の理念に示されたテーマの研究に真正面から取り組むことを使命と考えている。当研究所は、東日本大震災が現代文明に投げかけた様々な問題を明らかにすることを目的に、震災発生直後の2011年4月から特別プロジェクト「東日本大震災と文明」を開始し、大震災とエネルギー政策のあり方、大震災と現代文明の脆弱性、復興過程での脆弱性の修復の可否などを検討してきた。

実質的に第3年度となる本年度は震災復興研究をコアプロジェクトに昇格させて、地域研究に重点を移し、進み始めた復興事業の内容を比較することにした。また、国際的な漁業の集積としての漁港をかかえる地域と、高齢化人口減少が進み、もはや産業としての存続が難しい零細な漁港をもつ地域を対比するなかで、文理融合的なアプローチによって持続可能な地域社会と復興政策のあり方を検討した。

復興政策に見る制度改革の実現可能性

—— 宮城県現地調査を中心に ——

川野辺 裕幸

漁村社会と水産商工都市の共存共栄策

杉本 隆成